

色彩語にみる多義性：黒と白を中心に

新谷 真由

(筑波大学大学院 / カーン・バスノルマンディー大学大学院 博士課程)

本研究の目的は、仏語の色彩語である noir と blanc に見られる多義性について考察を行うことである。色彩を扱う先行研究として、Berlin & Kay (1969), Kay & McDaniel (1978), Wierzbicka (1990) を参照したのち、noir と blanc の概念化の過程を考察するが、本研究では身体性から立ち現れる意味と西洋文化に独自に根付く意味の両方の側面から、これらの色彩語が抱える多義性について分析を行いたい。本研究で明らかにしたいことは、我々を取り巻く環境がどのように我々の色彩語の概念化過程に影響を及ぼしているかを探ることである。ここで問題にする「環境」とは物理的・生物的環境だけではなく、社会的・文化的環境も含む、広義の「環境」のことである。そのような環境との相互作用的経験というダイナミズムが、どのように人間の意味づけ行為と言語活動を動機づけているのか明らかにしたい。